

令和5年度 第1回矢作川水系総合土砂管理検討委員会 議事概要

日時：令和5年9月14日（木） 15時00分～17時10分

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線ロバンケットホール3A
(WEB併用)

【議事】

1. 開会挨拶
2. 配布資料確認
3. 委員紹介
4. 委員長挨拶
5. 議事
 - 1) 最近の河川事業を取り巻く話題（報告）
 - 2) これまでの検討経緯（報告）
 - 3) 流入土砂量の見直し（審議）
 - 4) 矢作川水系総合土砂管理の進め方（案）（審議）
 - 5) 技術的課題の解決に向けた取り組み（報告）
6. 閉会

【議事要旨】

- 1) 最近の河川事業を取り巻く話題
最近の河川事業を取り巻く話題について、事務局から説明。
- 2) これまでの検討経緯
これまでの検討経緯について、事務局から説明。
- 3) 流入土砂量の見直し
矢作ダム湖への流入土砂量について、検討した結果をもとに見直した内容を事務局から説明。

各委員からいただいた意見は以下のとおり。

- ・矢作ダムの流入土砂量を近年の傾向で見直すことは了承した。
- ・ただし、東海（恵南）豪雨のような大規模出水時のリスク管理として、対応方針や対策を別途考える必要がある。
- ・総合土砂管理として長期的にみたときに、流入土砂量が安定している時期、流入土砂量が多い時期もあるため、全体スキームの中でどのような条件を対象とするか明確にするこ

とが重要である。

- ・大規模出水に対する堆砂対策施設や、砂防施設がダメージを受けた場合などの施設機能への影響やその条件も確認が必要である。
- ・流入土砂量の見直しにより、砂の割合が減り、礫の割合が増えたことで、下流河道の状況が変わることがあるため、留意しておくこと。
- ・100年間の予測計算で、今回見直した流入土砂量式を使用すると大規模出水時に年平均流入土砂量を少なく見積もってしまう可能性があるため留意すること。

●4) 矢作川水系総合土砂管理の進め方

矢作ダム湖への流入土砂量の見直しを踏まえ、矢作川水系総合土砂管理の今後の進め方について、事務局から説明。

各委員からいただいた意見は以下のとおり。

- ・これまでの委員会での審議内容に対し、近年の動きとしてDX、流域治水、ハイブリットダム等、状況が変わってきている。上位計画である河川整備基本方針を見直す際に、土砂管理を実施していくことを記載するなど、総合土砂管理をどのように考えるかがポイントである。
- ・これまでの委員会は、矢作ダムの恒久堆砂対策をどうするかがポイントであったが、矢作ダムへの流入土砂量の設定が減少したことにより、恒久堆砂対策が消極的、場当たりの対策とならないようにしてほしい。
- ・堆砂対策による下流河道への影響が気になる。置土等の土砂供給実験をやりながら下流河道への影響を確認し、事務局と協議しながら第一版をまとめていけるとよい。
- ・矢作ダム貯水池の100年予測計算では、年間の流入土砂量が4万m³から30万m³と幅がある。平均値だけではなく、幅についても議論しておくことよい。

●5) 技術的課題の解決に向けた取り組み

これまでに実施した土砂供給実験や今年度の実施計画について、事務局から説明。

各委員からいただいた意見は以下のとおり。

- ・河道に土砂を置くことで環境にどのような効果・影響を示すかを河道・環境WGで認識することができる。総合土砂管理として山から海まで土砂を流下させることの必要性を整理しながら、全体的な流れも見える会議を継続して行ってほしい。
- ・これまでの河川環境で課題となっていたことが、現時点でも課題なのか、将来的には変わる可能性があるのか、データを蓄積し、技術的な説明をしてほしい。
- ・現在の矢作川の様子も変わってきている。置土実験も年に一度で終わってしまっていることが多いが、将来的には出水のたびに土砂が流れるようになることを想定し、継続的に実

験を行ってほしい。また実験結果が実際の運用に活かせるようにしていただきたい。

以上